

< セミナーのご案内 >

● 今回配布先を限定しておりますので、関係各位へのご回覧につき、ご高配をお願いいたします。

回				
覧				

高等教育活性化シリーズ 383 (通算 714 回)

2019 年 3 月 22 日 (金)

オープンアクセスの新局面——

電子ジャーナル問題の最新動向と展開

～ 学術出版社・研究者／学会・助成機関・政府／大学・図書館 ～

- ※ 電子ジャーナルの高騰と攻防／オープンアクセス運動の今／学術雑誌のOA化／学術情報流通の明日
- ※ 知の創造と研究力の源泉としての学術論文・情報／オープンネスと科学イノベーションの広がり
- ※ [JUSTICE] 大学図書館コンソーシアム連合の取組み／購読モデルからOA出版モデルへ
- ※ 電子書籍市場動向／デジタル読書・デジタル教材／ネットワーク情報資源と電子図書館の明日

● 講師陣 ●

- 船守 美穂 氏 / 国立情報学研究所 (N I I) 情報社会相関研究系 准教授
オープンアクセス基盤研究センター 政策・連携担当
- 豊田 長康 氏 / 鈴鹿医療科学大学 学長 元 (国) 三重大学 学長
元 (独) 国立大学財務・経営センター理事長
- 市古みどり 氏 / 大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) 運営委員会 委員長
慶應義塾大学 三田メディアセンター 事務長
- 植村 八潮 氏 / 専修大学 文学部 人文・ジャーナリズム学科 教授
日本出版学会 会長

【企画協力：学校法人 城西大学】

2019 年 3 月 22 日 (金) 城西大学 東京紀尾井町キャンパス3号棟 国際会議場 (東京・麹町)

地域科学研究会

高等教育情報センター

日時：2019 年 3 月 22 日 (金) 10:00 ～ 16:50

会場：城西大学 東京紀尾井町キャンパス3号棟
国際会議場 (東京・麹町) 千代田区平河町 2-3-20

アクセス：東京メトロ有楽町線「麹町駅」、1番出口より徒歩5分。東京メトロ半蔵門線「半蔵門駅」、1番出口より徒歩5分

※受講証及び会場の地図の送付をもって参加受付となりますので、必ずご確認ください。

参加費：A. ご一名 (資料代込) 41,000 円 (税込)

B. メディア参加 (資料・音声 CD 送付) 42,000 円 (送料、税込)

C. 高等教育同人 (☆) 21,000 円 (税込)

※ メディア参加とは会場に来られない方の参加形式で、開催後に当日配布資料及び音声 CD を送付します。

※ なお、当日参加とともに、音声 CD をご希望の方には、特別割引いたしますのでお問い合わせ願います。

※ 参加費の払い戻しは致しません。申込者の都合が悪いときには代理の方がご出席ください。

☆ 高等教育計画経営研究所同人は KJ の HP でご確認ください。

申込方法：参加申込書に所要事項を記入のうえ、FAX または E-mail にてご送付ください。

支払方法：銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。

みずほ銀行麹町支店 普通 1159880

三菱 UFJ 銀行神田支店 普通 5829767

三井住友銀行麹町支店 普通 7411658

郵便振替 00110-8-81660

口座名 < (株) 地域科学研究会 >

※ ご請求なき場合は振込受領書を領収書に

代えさせていただきます。

申込先：地域科学研究会・高等教育情報センター

東京都千代田区一番町 6-4ライオンズ第 2-106

Tel: 03 (3234) 1231 Fax: 03 (3234) 4993 〒102-0082

E-mail : kkj@chiikikagaku-k.co.jp

HP : <http://www.chiikikagaku-k.co.jp/kkj/>

キリトリ線 (※参加申込みの折は必ずお送りください)

研修会参加申込書

高等教育活性化シリーズ 383

電子ジャーナル問題の最新動向と展開

(□に✓印を)

当日参加

メディア参加

支払方法 郵便振替

当日払い

銀行振込

必要書類 請求書

見積書

領収書

勤務先 _____

所在地 〒 _____

(書類宛名 _____)

連絡部課・担当者名 _____

TEL _____

FAX _____

メールアドレス _____

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講義項目
<p>10:00 ～ 11:30</p>	<p>□ 電子ジャーナルを巡る攻防の世界動向と日本の課題 ～ 購読モデルから著者負担OAモデルに移りゆく学術雑誌 ～</p> <p style="text-align: right;">国立情報学研究所 船守 美穂</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電子ジャーナル価格高騰問題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 電子ジャーナル価格高騰の現状 (2) 電子ジャーナルと冊子体の学術雑誌契約の違い (3) 電子ジャーナルのパッケージ契約の功罪 (4) 電子ジャーナルによる予算圧迫 2. 電子ジャーナル価格高騰問題の解決方法としてのオープンアクセス運動 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学術雑誌における不合理なコスト構造への反発とOA運動 (2) 機関リポジトリを利用したOA (グリーンOA) (3) OA雑誌を利用したOA (ゴールドOA) (4) 社会からのOAへの要求と研究助成機関によるOA義務化 3. 最近の学術雑誌OA化に向けての強い動き <ol style="list-style-type: none"> (1) 二重取りを生むハイブリッド雑誌への反発とフリッピングの動き (2) OA2020 (マックスプランク研究所の提案) (3) 各国学長協会等の動きと大手商用雑誌の解約 (4) プランS (欧州11研究助成機関からの強行なOAへの転換要求) (5) 新しいOA出版契約モデル (Publish and Read Model 等) 4. これからの学術情報の流通を考える <ol style="list-style-type: none"> (1) 多様な学術出版形態の模索 (プレプリント、SCOP3、共同出資モデル) (2) 学術総合プラットフォームを目指す商用出版社 (3) オープンサイエンスと研究データ共有の動き (4) 日本の課題と対応の方向性 <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>
<p>11:40 ～ 13:00</p>	<p>□ 知の創造と研究力の源泉としての学術論文・情報 ～ オープンアクセスから新たな科学イノベーションを拓く ～</p> <p style="text-align: right;">鈴鹿医療科学大学 豊田 長康</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の「研究教育力」(学術論文)はイノベーションの「広がり」と「量」を介してGDPに貢献する <ol style="list-style-type: none"> (1) 学術論文数とGDPとの関係性 (2) 各種イノベーション指標の「広がり」による分類 (3) 学術論文はイノベーションの「広がり」と「量」を介してGDPに貢献する 2. 学術論文数を決める要因と日本の研究力が失速した原因 <ol style="list-style-type: none"> (1) 論文数を決める要因 (2) 日本の研究力の惨憺たる状況とそれを招いた原因 (3) 「選択と集中」の罨 (4) すべては研究従事者数(FTE)に帰着する 3. 学術情報のオープンネスとイノベーションの「広がり」 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「偏り(集中)」と「広がり」の事例 (2) 学術情報のオープンネスの重要性 <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>
<p>14:00 ～ 15:20</p>	<p>□ 学術雑誌 - 購読モデルからOA出版モデルへ ～ JUSTICE (大学図書館コンソーシアム連合) の取り組み ～ (仮)</p> <p style="text-align: right;">JUSTICE 市古みどり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. JUSTICE 活動の概要 2. 契約交渉に関する課題 3. オープンアクセス出版モデル導入のための活動 <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>
<p>15:30 ～ 16:50</p>	<p>□ 電子書籍・電子図書館の開発と今後の展開 ～ 学術情報・デジタル教材のエコシステム ～</p> <p style="text-align: right;">専修大学 植村 八潮</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電子書籍市場の動向 <ol style="list-style-type: none"> (1) 図書館を取り巻く環境変化 (2) 出版産業の構造変化 (3) 電子書籍市場の現在 2. デジタル読書とデジタル教材 <ol style="list-style-type: none"> (1) 著作権法の改正 (2) デジタル読書の動向 3. 電子図書館・電子書籍貸出サービス調査 <ol style="list-style-type: none"> (1) 公共図書館調査 (2) 大学図書館調査 4. ネットワーク情報資源と電子図書館 <ol style="list-style-type: none"> (1) 米国の電子図書館 (2) 公共・大学・学校図書館の連携 <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>